

S S T K

社会福祉法人 埼玉のぞみの園

# 法人だより No.17

編集発行 埼玉のぞみの園法人本部 〒369-1105 埼玉県深谷市本田3343 編集責任者 理事長 山崎 勝

発行 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒332-0011 埼玉県川口市元郷1-10-13

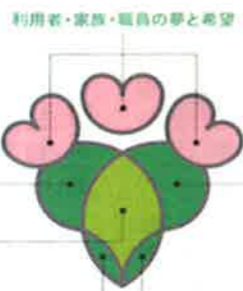
定価1部 50円

## シンボルマークコンセプト



社会福祉法人 埼玉のぞみの園

本シンボルマークは多様化が進んだ事業・施設による分散した法人イメージの統一化を図り、活動理念の再確認をするためのものです。



利用者・家族・職員への夢と希望  
①福祉職の専門知識 ②自立への支援  
③対等な関係 ④地域協力  
「人としての夢と希望を持ち、個々の能力を最大限に発揮し、生きがいのある人生を願うよう支援します」の基本理念を「花」と「葉」を用いて表現した。「花」は「利用者・家族・職員の夢と希望」、そして「葉」はその根幹となる精神を示す。「花」を生き生きと咲かせるために、「葉」である我々ができること、しなければいけないことは、「①福祉職の専門知識、②対等な関係、③自立への支援、④地域協力」が必要と考えたからである。

そこで埼玉のぞみの園の旗のもとに、各事業が運営されているという事をもっと広くアピールし、法人ブランド力を高めると共にそこに集う利用者や職員が誇りを持って働ける、そんな法人のあり方を願い、法人マークを策定することになりました。

埼玉のぞみの園では、障害者支援施設・障害福祉サービス事業所・グループホーム・地域支援事業所及び相談支援事業所、パンうどんの店など、多方面にわたり障害福祉サービスを展開しています。  
エリアは深谷・熊谷に点在、提供しているサービスもそれぞれ違いますが、地域の皆さまには「埼玉のぞみの園」というものが何をしている法人なのかわかり難いという課題がありました。

先代の言葉ではありませんが、これからも地道な努力と豊かな夢を忘れることなく、地域に「のぞみの光」を放ち続けていきたいと願っています。



▲ご応募53作品中、見事選ばれました

深谷たんぼぼの田辺さんと山崎理事長。おめでとうございます！！



埼玉のぞみの園

理事長 山崎 勝

走ってるのを見かけたらマークをぜひ見てくださーいね！



## 後援会

ご協力者様

順不同・敬称略にて御容赦願います。  
平成27年12月5日平成28年2月  
※平成28年2月29日現在

安藤文二  
双木泰夫  
角田海草店

心より感謝を申し上げます。

## 今年度の予定

平成28年4月  
深谷市障害者基幹相談支援センター  
うらら業務委託

平成28年9月  
深谷市上柴グループホーム新設

他にも新入所施設建設、老朽化修繕費用など、障害をもつご利用者の福利のため、よりいっそう努力して参りますので、ご賛同いただけます方は、何卒よろしくお願い申し上げます。

(年額)一口：千円から

※各施設にて随時受付。

後援会員の方にはこちらの会報を送らせていただきます。

## 法人ご寄付

ご協力者様

(順不同・敬称略にて御容赦願います)  
平成27年12月5日平成28年2月  
※平成28年2月29日現在

須賀経子  
島田茂  
金野綾子  
権田節子  
中島啓和  
高橋自動車整備工場

福祉の向上のために使用します。

## 土地一坪運動

ご協力者様

(順不同・敬称略にて御容赦願います)  
平成27年12月5日平成28年2月  
※平成28年2月29日現在

大沢美知子  
梶山 實

新施設建設のために大切に使用します。

現在のご寄付額

五、四五二、八九四円  
(平成28年2月29日現在)

## いろいろギャラリー



▲生け花サークルのお花をホームの玄関に飾っています。



▲9月オープン上柴ホームの地鎮祭の様子。親元を離れ地域で生活する第一歩となります。



豹 (フリーハンドによる色鉛筆画) 第2春日園 矢口麻美

助成金をいただきました  
※平成27年12月5日平成28年2月

平成27年度UACJ深谷市 障害福祉助成金様

対象事業所：深谷たんぼぼ  
対象事業：作業関係備品  
(ハンドリフト・台車・計器他)  
総事業費：三八九、〇一六円  
助成額：一八九、〇〇〇円  
決定日：平成27年9月4日



▲ハンドリフト  
業務拡大により必要となった授産用の備品を購入できました。どうもありがとうございました！

## 人事異動のお知らせ

※平成28年4月5日

●榎澤 正範  
深谷たんぼぼ施設長

深谷市障害者基幹相談支援センター  
うらら管理者兼務

●鎌田仁孝  
妻沼つくし施設長

深谷たんぼぼ嘱託職員(定年による)

●泉 慶一  
生活支援センターのぞみ

妻沼つくし作業所施設長





行動援護とは知的障害、精神障害の方の外出などの活動で生じる危険を回避し、安全に支援するサービスです。

行動援護の対象者は先に記述したとおり、知的障害や精神障害のある方で、障害支援区分3以上で認定調査項目のうち行動関連項目等（12項目）の合計点数が、10点以上の方です。

サービスの内容としては、予防的対応、制御的対応、身体的介護的対応があります。

①予防的対応とは、始めての場所不安定になって不適切な行動がないように、あらかじめ目的地での行動などを理解してもらうことや、視覚・聴覚的な刺激から問題行動にならないよ



うな予防的対応です。  
②制御的対応とは、行動障害を起してしまつた場合に、利用者や周囲の人の安全を確保しつつ問題行動を適切におさめることなどです。  
③身体介護的対応とは、排せつおよび食事等の介護その他の行動する際に必要な援助をいいます。  
1月現在、のぞみでの利用者数は移動支援からの切替で6名、新規の方で2名です。行動援護に移行することで移動支援からの切替えの方の支援が急激に変化するわけではありませんが、行動援護実施の際の研修終了者等必要要件もあり、支援の質の向上が期待されます。

実際、昨年末から行動援護を実施して感じることは、支援の基本的な流れ↓アセスメントを元に計画を作成↓支援結果を共有&フィードバック等のプロセスにより、充実した支援へと繋げることができるということです。困難を感じることも多いですが、ご利用者の新たな一面を発見した時には嬉しいものです。（生活支援サービスのぞみ 新井た）

### 成年後見制度研修

平成28年 新春講演会  
知的・発達障害の理解

深谷市手をつなぐ育成会と深谷たんぽぽ保護者会の共催により、平成28年2月15日深谷公民館大会議室において成年後見制度研修会が開催されました。講師は原島久様（NPO成年後見センターいきいきネット副代表）です。  
今回の研修では、そのシステムと現場の実際をご紹介いただきました。法人後見のメリットとは、複数の職員や専門家による計画的かつ継続的な支援、相互のチェック機能等です。  
原島様は秩父支部のご担当ですがまだまだ県北には拠点が少ない、活動を広げ、親戚後も障害をもっていても、ご本人の希望に合わせて生活できる環境を叶えたいという熱い思いに感銘を受けました。そしてまた、サービスを受けている方の周囲の理解と協力も大切だと強く感じました。（深谷たんぽぽ 前沢）

今年の新春講演会では、埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」センター長 藤平俊幸様に「知的・発達障害の理解」をご講義いただきました。授産事業に力を注いでいる我が法人に特化し「施設内就労の支援」に焦点をあて、内容を組み立てていただきました。理論と実践からなる具体的な内容で、職員達の質問も喫急なものばかりで、時間が足りない程でした。講義中、「どんなに重篤な特徴をもつていても必ず成長する」という言葉と共に成長を信じていくことの大切さが強調され、また「人を好きでいられる様な支援」が将来、ご本人が地域で生活する上で適応しやすくなるという説明もあり、私たち職員の人間性や支援の質の重要性について考えさせられました。年始という忙しい中お越し頂きました藤平様はじめ近隣施設の皆様、どうもありがとうございました。（法人本部 齊藤）

NPO成年後見センターいきいきネット  
TEL : 048-825-6200  
受付時間 : (土日祝日を除き)  
10:00~17:00

## 雪国体験記

第2春日園 課長 坂本弘道

### 初挑戦



今回の旅行は、山崎園長より「冬の季節の美しさを利用者にも体験させてあげたい」との一言から、第2春日園：いや法人初の、雪国体験旅行を企画しました。雪が降ると休園や時間遅れ等で対応していた私たちが、利用者に対して雪国で何が



できるのか、ワクワク感と不安が混在する一方で、担当職員も「雪遊び」方法を考える良いきっかけになりました。この状態に際してどう対処するのか？色々な滑り止めや車椅子で雪上を走行できる方法などの情報を下見も含めて実際に調べ準備しました。



和風旅館でほっこり。 恋人の鐘を鳴らす 山崎園長と松本課長でしょうか？

雪遊びのスキーでは利用者2名の方がパウダースノーの雪質を驚沢に使い初滑りを体験。グレンデで行っているスキー教室の見よう見まねで教えたスキーでしたが、利用者のやる気を引き出して、2名とも「滑り止まる」ができるようになりました。時間を忘れるほどの熱中ぶりでした。



雪遊び 雪景色 利用者の皆さんの中には初めて雪国に行く方もおり、雪国の楽しみ方を知ってもらいたく、

今回の旅行は、山崎園長より「冬の季節の美しさを利用者にも体験させてあげたい」との一言から、第2春日園：いや法人初の、雪国体験旅行を企画しました。雪が降ると休園や時間遅れ等で対応していた私たちが、利用者に対して雪国で何が

①スキーやソリ等を肌で感じてもらう雪遊び  
②雪国の雄大な景色を堪能するロープウェイのアトラクションコース

以上、2コースを用意しました。雪遊びのスキーでは利用者2名の方がパウダースノーの雪質を驚沢に使い初滑りを体験。グレンデで行っているスキー教室の見よう見まねで教えたスキーでしたが、利用者のやる気を引き出して、2名とも「滑り止まる」ができるようになりました。時間を忘れるほどの熱中ぶりでした。

### 2日目は駅中ショッピング

2日目は駅中ショッピングに同行しました。湯沢駅の中ですが、ちょっとしたデパ地下風になっていまして、ラーメンからおにぎりまで美味しいものが沢山あります。そして極めつけは新潟の酒を全て扱っている「ボン酒館」という一風かわった店があり、何とワンコインで好みの酒が試飲できる、きき酒「ナー」があります。利用者の中でも程よく酔われた方もいらしたようで、職員は飲まずに土産として「購入のみ」で我慢したようです。



### ホテルの貸切風呂

今回は雪がメインの旅行ですがじつは温泉も楽しめるホテルで大きな貸切風呂があります。この貸切風呂は通常の貸切風呂とちよつと違い、広さが本当に凄いで、露天風呂まであって皆さんが心置きなく過ごすことができ、雪や寒さが苦手

### 先入観を捨てる

実際に雪国に行ってみて思った事は、考えている以上に利用者が動けるという事でした。ご本人の能力と適応性の凄さに気付かされました。今回の旅行でご利用者の「可能性」を知り、また不可能と思う前にどうやったら出来るのか？考え・実行する体験から、職員一人ひとり支援への自信につながればと望みます。